

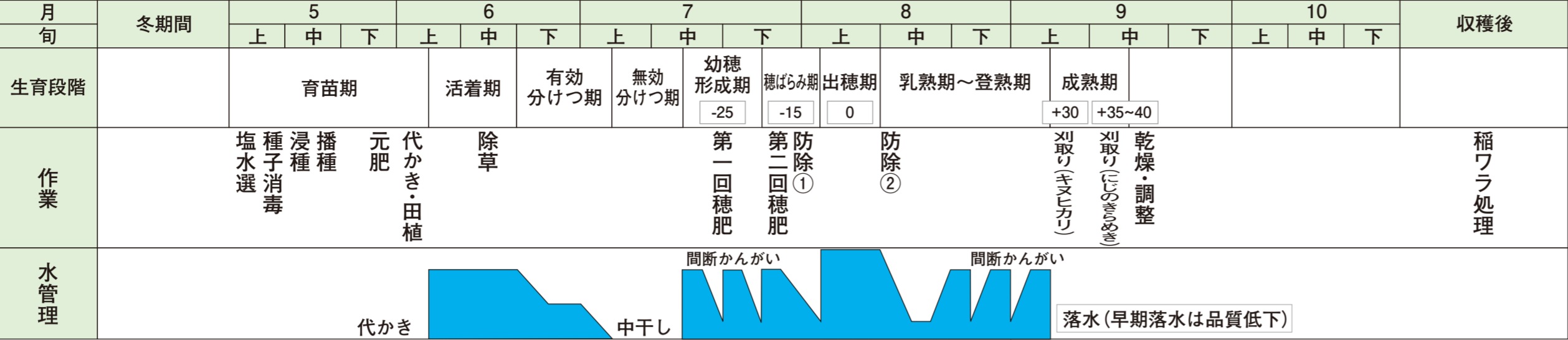
使わない!!
無登録(登録外使用)農薬

令和8年産

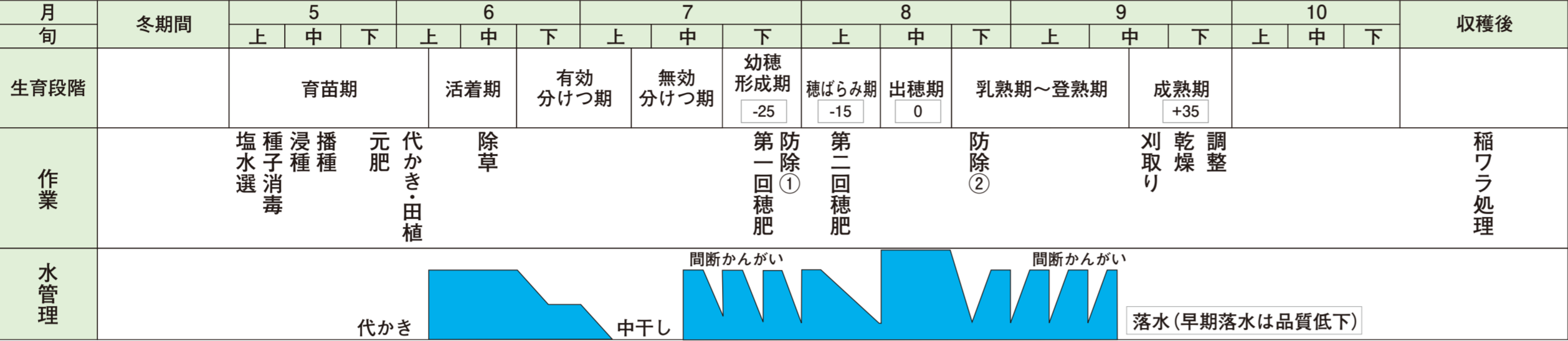
水稻栽培ごよみ

JAわかやま
わかやま地域本部
平坦地対象

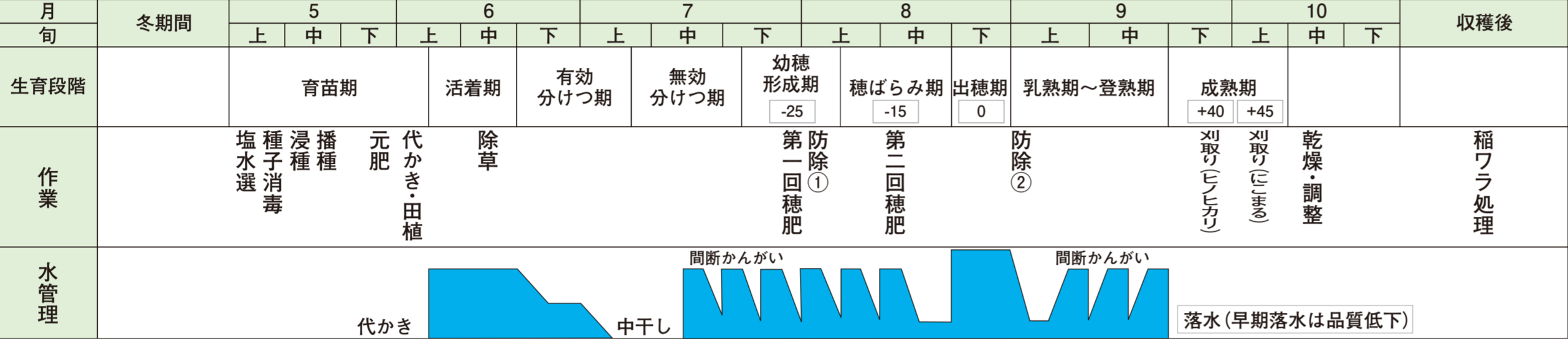
キヌヒカリ・にじのきらめきの栽培ごよみ



きぬむすめの栽培ごよみ



ヒノヒカリ・にこまるの栽培ごよみ



基幹防除例(全品種共通)

防除時期	病 害 虫 名	防 除 薬 剤	使用倍数 (収獲前日数/回数)	10a当たり 散 布 量	備 考
収穫後～ 2月末	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	集 団 一 斉 耕 起			集落単位(10ha以上)で実施する。
5月上・中旬	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	集 団 一 斉 耕 起			3月までに一斉耕起のできない 地域(裏作の作付率が高く、休耕 田が点在するような地域)では5 月に行く。
浸 種 前		塩水選を励行する			(うるち米の塩水選は、水10ℓに食塩 2.0～2.5kg、または水10ℓに硫酸2.2 ～2.9kgとする) 塩水選後水洗いを励行する。
種子消毒	ば か 苗 病 褐 条 病 も み 枯 菌 病 イネシガレンシチュウ	テクリードCフロアブル スミチオン乳剤	200倍(1回) 1,000倍(1回)	24時間 種子浸漬	
播 種 時 又は 播 種 後	苗 立 枯 病	タチガレン液剤 (7ゼリウム蓄・ピシウム蓄) ダコニール1000 (リゾブス菌)	500倍(2回) 1,000倍 (は種14日後 まで/2回)	1箱当り 500mℓ	
育 苗 期	ヒメトビウンカ (縞 葉 枯 病) ツマグロヨコバイ (萎 縮 病)	〔畦畔および 育苗中の防除〕 ト レ ボ ン E W	1,000倍 (14/3)		畦畔や周囲の雑草を除草し、育 苗箱はできるだけツマグロヨコ バイ等のいない場所におく。
田植の 3日前～当日	い も ち 病 紋 枯 病 ウ ン カ 類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ コブノメイガ イネミズゾウムシ	スクラム箱粒剤 (育苗箱処理)	(1回)	1箱当り 50g	
田植直後	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	ジャンボたにくん	(60/2)	1～2kg	代かきは均一にし、田植後はで きる限り浅水に管理する。

(1) 一般体系防除例(キヌヒカリ・にじのきらめき・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

防除時期	病 害 虫 名	防 除 薬 剤	使用倍数	10a当たり 散 布 量	備 考(散発的防除)
7月下旬 キヌヒカリ にじのきらめき	カ メ ム シ 類 コブノメイガ ウ ン カ 類 ツマグロヨコバイ	ト レ ボ ン E W	1,000倍 (14/3)	150ℓ	◎いもち病、紋枯病発生のおそれ がある場合は、アミスターエ イト1000倍(14/3)を散布(加用) する。
7月下旬 きぬむすめ 7月下旬 ヒノヒカリ・にこまる	カ メ ム シ 類 コブノメイガ ウ ン カ 類 ツマグロヨコバイ い も ち 病 紋 枯 病	ト レ ボ ン E W アミスターエイト	1,000倍 (14/3) 1,000倍 (14/3)	150ℓ	
8月中旬 (乳熟期) キヌヒカリ にじのきらめき 8月下旬 (乳熟期) きぬむすめ 9月上旬 (乳熟期) ヒノヒカリ・にこまる	カ メ ム シ 類 ウ ン カ 類 ツマグロヨコバイ	スタークル顆粒水溶剤 ※カメムシ類の多 発が予想される山 間部などの地域 は、乳熟期の防除 7日～10日後に、 もう一度防除を 行ってください	2,000倍 (7/3) 3,000倍 (7/3)	150ℓ	◎乳熟期とは穂が出揃い傾きか けた頃です。 ◎コブノメイガの発生が見られ る場合は、ロムダンゾル1,000倍 (21/2)を混用してください。 ◎乳熟期以降にトビイロウンカ の発生がある場合はエミリアフロ アブル1000倍(7/2)を散布して ください。

除草剤使用基準

稚苗移植栽培(10a当り使用量)

◎田植同時・一発処理

エンペラー1キロ粒剤 移植時または移植直後～ノビエ3葉期ただし収穫60日まで(1回)	1 kg
---	------

◎省力一発処理

サラブレッドKAIフロアブル 田植直後～ノビエ2.5葉期ただし移植後30日まで(1回)	500mℓ
--	-------

◎超省力一発処理

エンペラージャンボ 田植直後～ノビエ3葉期ただし移植後30日まで(1回)	25g×10個
---	---------

一発処理後とりこぼし雑草が
ある場合(10a 当り)

◎サンパンチ 1 キロ粒剤 1 kg (湛水散布) 移植後 15 日～ノビエ 3.5 葉期 但し収穫 60 日前まで／ 1

◎クリンチャーパス ME 液剤 (落水散布) 移植後 15 日～ノビエ 5 葉期 但し収穫 50 日前まで／ 2 薬量 1,000 mℓ / 希釈水量 70～100ℓ
--

※除草剤使用上の注意点

- ① 藻類、ウキ草類の多発田では通常除草剤使用前にモゲトン粒剤3kg／10a(45/3)を施用する。
- ② 圃場は均平に努め、代かきはいいいにする。
- ③ 水管理に注意し、3～5cmの湛水状態で散布して、1週間程度は落水しないようにし、かけ流しや田面の露出はさける。
※ジャンボ剤については、5cm以上の湛水状態で散布する。
- ④ 漏水田では特に除草剤の使用に十分注意する。

(2) 豆つぶ体系防除例

(キヌヒカリ・にじのきらめき・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

防除時期	病 害 虫 名	防 除 薬 剤	10a当たり 散 布 量	備 考
7月中～下旬 キヌヒカリ にじのきらめき 7月中～下旬 きぬむすめ 7月中～下旬 ヒノヒカリ・にこまる	い も ち 病 紋 枯 病 ウ ン カ 類 カ メ ム シ 類	ワイドパンチ豆つぶ	250g (35/1)	使用時は湛水 状態を保ち、散 布後1週間は落 水しないくだ さい。 吸湿性の為、濡 れた手での作 業や、降雨時の 散布を控えて ください。
8月上旬 キヌヒカリ にじのきらめき 8月中旬 きぬむすめ 8月下旬 ヒノヒカリ・にこまる	カ メ ム シ 類 ウ ン カ 類 ツマグロヨコバイ	スタークル豆つぶ	250g (7/3)	ワイドパンチ 豆つぶ散布後 に高温が続く と、葉に斑点が 生じることが ありますが、生 育への影響は ありません。

良質米生産のポイント

1. 土づくり
2. 健苗育成
3. 間断かんがい励行
4. 病害虫の適期防除
5. 適期刈り取り

●土づくり対策

- 深耕
- 生ワラの全量還元
石灰チッソの施用は、耕起時に10a当り20～30kgとする。
水田の乾土効果を高めるため、耕起は12月～2月末までに行う。

土壌改良資材	施肥量の目安 (10a 当り)	
	標 準 水 田	秋落ち水田
農力アップ (ケイ酸 20.0% 珪土 2.0% リン酸 2.5% 鉄 12.0%)	100kg	140kg

◎ケイ酸の施用効果

- ・茎葉を強くし、倒伏の軽減や、病害虫に強い株を作る。
- ・受光体制を良くすることで、登熟歩合を向上させるとともに、乳白米の発生を抑制する。

◎鉄の施用効果

- ・根を保護し、根腐れ秋落ちの防止、養分吸収の向上に役立つ。

●省力型施肥例

肥 料 名				施肥量 kg/10a	成 分 量			
				元肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
キヌヒカリ にのきらめき	極早生 ↓ 早 生	全 施 肥 側 条 施肥機	エムコート489 早生(24-8-9)	45	10.8	3.6	4.0	
				40	9.6	3.2	3.6	
きぬむすめ ヒノヒカリ にこまる	中 生 ↓ 晩 生	全 施 肥 側 条 施肥機	エムコート489 晩生(24-8-9)	45	10.8	3.6	4.0	
				40	9.6	3.2	3.6	

●標準型施肥例

肥 料 名		施 肥 量 kg/10a			成 分 量		
		元肥	第1回 追 肥	第2回 追 肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
標 準 型	燐加安44号 (14-17-13)	40			10.4	8.4	10.0
	太閤 (12-4-12)		20	20			

(注) キヌヒカリでは初期分けつを促すため、元肥を一割程度増やしてください。

特殊病害虫

防除時期	病 害 虫 名	防 除 方 法
—	もみ枯細菌病	出穂時の高温・降雨で感染するおそれがあるため、種子更新及び種子消毒の徹底を行う。 
乳熟期以降	トビイロウンカ	収穫期前の水田で、坪枯れ症状を起こす。防除薬剤が株元にしっかりとかかるよう株間を広く取ることが有効。 発生が多くみられる場合は、エミリアフロアブル1000倍(7/2)を散布する。 

重要病害虫防除

防除時期	病 害 虫 名	防 除 方 法
出穂～乳熟期	斑点米カメムシ	・カメムシの越冬対策として、冬場から圃場周辺の雑草を除草する。 ・畦畔や周囲の雑草を除草する。 ※6月上旬から出穂2週間前までに除草を徹底して行い、カメムシのすみかを無くす。 その後カメムシの水田内への飛び込みを防ぐために、収穫2週間前までは除草を控える。 ・出穂期～乳熟期に薬剤を散布する。   〔ミナミアオカメムシ〕
出穂期以降	紋枯病	上位葉への発病が見られる場合、バリアダンシ液剤5 1,000倍(14/5)を株元にかかるよう丁寧に散布する。 

※栽培履歴は忘れず記帳!!

※品質アップは種モミの更新から!!

◎農薬の使用基準は変更になる場合がありますので注意しましょう。

◎農薬使用基準を守り、適期適正防除を行いましょう。

令和7年11月現在

海草振興局農林水産振興部
農業水産振興課監修

防除の際は飛散(ドリフト)に注意しましょう。

防除記録は必ず記帳しましょう!

農薬(毒物・劇物)の購入には必ず印鑑を!! 農薬散布は必ずマスク・防除衣を着用しよう。